

脈々 高蔵<sup>スピリッツ</sup>魂

(創立者 市邨芳樹のことば)

「茲<sup>ここ</sup>に刃<sup>あ</sup>を中つ」

人生の入口は不意に目の前に現れ、たちまちにして消え去る。暗闇に走る一瞬の閃光にも似ている。自分の人生を決定付ける出会いとは、そうしたものだ。

なまぐらの刀では、火花は散らない。曇った眼には姿が映らず、鈍い感性にはどんなことばも響かない。

自分の適性など、考えて分かるものではない。自分にとって、自分ほど未知なるものはない。日々錬磨あるのみ。

有用の人たれ。活舞台に於て活躍する活人物たれ。  
(「藪椿」1-1)